

活動名:第7回福島空港公園杯8人制ジュニアサッカーフェスティバルU-10

日程:平成28年6月11日～12日

会場:福島空港公園 緑のスポーツエリア 多目的運動広場

参加:E4クラス

帯同:小松コーチ

報告:小松コーチ

結果:優勝

いつもクラブやチームに暖かいご協力とご支援をありがとうございます。

いよいよこの世代もアーレの公式戦に参加出来るタイミングとなりました。

アーレは協会登録をしておりません。

よって今回のような大会参加が公式戦となり年間活動プログラムに記載されております。

必ず全員がピッチに立つと言う理念で活動しておりますので文字通り全員が選手です。

全身全霊でスポーツ、サッカーを楽しんでくれたことと思います。

この空港公園大会は設楽代表の職場都市公園緑化協会が主催して私達アーレが後援として関わる第7回を数える言わばアーレ自前の大会です。

2日間に渡り芝生面全面試合ピッチ、下の人工芝全面練習ピッチとして使用出来る環境には申し分ない大会であります。

私達コーチ世代には絶対体験出来ない夢のような環境での2日間でした。

おそらく選手の保護者の皆さまの中にも

この環境を幸せに感じられる方々が多いと思います。

今の選手はそれだけでも幸せですよ。

羨ましい限りです。

さて大会は、と言いますとエンジョイ4年生クラスには失礼ながら初めから優勝が見えておりました。

言わば必然、アーレのどのコーチが指揮を執っても優勝があったと言うことが出来ます。

それだけ練習に取り組む姿勢やチームワークが良く何より誰よりもサッカーが、アーレが、チームが、クラブが大大大好きと言った選手達なのです。

素晴らしいことだと思います。

この気持ちを選手は存分に試合で発揮してくれたこそその結果やはり必然ですよ。

それでは練習に取り組む姿勢とは

ある選手がある時期オーバートレーニング気味の症状が両足首に出了ました。

その選手の頑張りはそのクラス象徴それはそれは眩しい輝きを放ちます。

お休みなのに関わらずわざわざ自主的に練習時間に合わせて顔を出し最後まで練習参加選手に寄り添ってました。

若干3年生の選手がです。

素晴らしい器ですよ。クラブ愛、チーム愛、友情、愛情、信頼。

またある選手とある選手。

この2人はいい意味で常にライバル関係。

1人はこの2日間をキャプテンとしてチームをまとめてくれました。

1人は毎試合で私から自由にとやってくれた選手です。

この2人のある練習での最後の試合での出来事です。

この最後のゲームでの彼らの戦いにはある種神聖な空気がありました。

本当の魂と魂のぶつかり合いです。

最終的にユニホームを引っ張ってまで絶対止めると言う次元まで足を踏み入れました。

そして引っ張られてもなお全然お構いなしのままボールに関わり抜き去ることを極めんとしていました。

誰がこの神聖なやり取りを止めることが出来ますか？

スポーツ、サッカーの本質、引っ張られたり持たれたりしても関係なくボールへと関わろうとする本質へのチャレンジ。

私はただただ素晴らしいと称賛することしか出来ない自分がいました。

もちろん練習後は注意を軽くはしました。

選手同士もすぐに仲のいい何もないいつも通りの関係でした。

ある瞬間2人は間違いなくサッカーの神様が降りて来て本質を教えてくれたと思います。

ゲスの極み、持った持たれた、蹴った蹴られた、引っ張った引っ張られたと言うサッカーの神様が1番嫌う低俗的なことではなく。

ライバルが同じチーム、クラブ、学年に居る関係幸せですね。

そして試合でもこんな懐の深さも感じました。

ある選手は集中してくるとボールに引っ張られるボールウォッチャー。

誰しものが通るみちです。

しかしこと試合となるとそこからやられ出してしまいます。

何度かの軽いアドバイスののち完全にこのウォッチャーを試合で克服してしまいました。

まだあります。

ある女性選手はそれこそ1人で男性の中で良く戦ってくれました。

時に人はボールに関わらない走りをムダ走りと言う場合があります。

しかし彼女の走りはボールをドリブルする人にはしっかりと関わっていました。

私が1人1人に試合について考えを聞いている時間に彼女は思わず涙してしまいました。

そう責任を感じたのでしょうか。

信頼を裏切っていると考えたのかもしれませんが。  
しかしある選手は彼女を讃えました。  
ムダ走りではない走って走って走っていると。  
たとえボールに関わらなくても人には関わっていると。  
何事も一生懸命やれば伝わるものですね。  
素晴らしいチームです。必然と言えますね。

しかしこんな話もしました。  
運です。一方では数学的確率論とでも言いますでしょうか  
ある選手のゴール前での出来事です。  
蹴り込めばゴールと言う場面で彼は、ゴールを何度も逃してしまっています。  
引けば絶対あたり、買えば絶対あたり。  
人生には得てして何度かこんな場面があります。  
誰でも必ず1回は体験するのではないのでしょうか？  
もちろんこのタイミングには自分自身が深く深く投影されます。  
だからこそこの運です。逃す理由が見つかりません。  
言い換えれば優しさなんて言えるかもしれません。  
しかし優しさには強さも必要だと思います。  
人に優しくすると言うことは誰に対しても優しくしなくてなりません。  
結果すべては自分に返って来てしまいます。  
もちろん優しさもです。  
であればこそこの運、逃さず自分のため、自分のためがチームのため、チームのためがク  
ラブのため、そして最終的にはみんなの信頼のために使わなくてはなりません。  
そこを感じて欲しかったです。  
優しさ以上のおとこととしての強さが欲しかったです。  
サッカーでは良くごつつあんゴールと言う言い方をしますが彼がその場面に居たこと関わ  
ったことこれは紛れもなく必然なのです。  
数回この場面があった訳ですから。  
今後に期待したいと思います。

と選手との素晴らしいやり取りをさせて頂いての優勝となりました。  
本当にありがとうございます。  
実際選手にゲームを任せても安定感はありましたね。  
自らの判断でキーパーを外して全員相手ピッチもしくは1人だけ守りに置いてもありまし  
た。  
ゲーム感も充分でした。

ある保護者の方と話す時間があり長男が多いことや仲が本当に良いことなどを伺いました。

やはり長男と言えば読んで字のごとし

家の長を引き継ぐものです。

これからも私達コーチは個としての要求をどしどししていきます。

どうぞご家庭でも自立を促し私達と一緒に育んで行ければと考えております。

決してスポーツ、サッカーは団体競技ではありません。

1個人としてのプレーが試合を左右します。

私達もこれからも選手1人1人を全力でサポートしていきます

どうぞよろしく申し上げます。

また各大会参加チームのスタッフ、選手の皆さま本当にありがとうございました。

時にはゲームに対して私自らの失言があったことひらに御容赦ください。

ゲームは選手達のもの、コーチの私が失言で壊すものではありませんでした。

ただ言った言われたなどとならない質の高いゲーム演出を目指していきたいと思えます。

最後に何度も言いますが必然な部分が圧倒的に多い優勝でした。

この通過点を過大評価することなく次のページ進んで欲しいと思えます。

間違っても勝利を披露する場ではありません。

勝ちがあるから負けもあるのです。

頑張りを披露する場です。

その結果の優勝おめでとう

コーチ 小松 大輔







